

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 8 月 17 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170102905		
法人名	医療法人和光会		
事業所名	グループホームファミリーケア大黒町		
所在地	岐阜市大黒町3丁目12番地の1 (電話) 058-259-3219		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年8月8日	評価確定日	平成20年9月17日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設4年が経過したホームは、学校や住宅地に囲まれ、商店の買い物や交通の便にも恵まれている。「家庭的な環境と地域住民との交流の下で地域と共に暮らす」を理念に、できる限り地域の商店を利用して、地域に自然に溶け込んだ暮らしが出来るよう支援している。建物内に「ふれあいセンター」があり、地域会合や老人会の集会にも開放し、地域との交流の接点となっている。情熱を持った管理者とその目指す方向を職員が十分に理解して、日々充実したケアが行われている。管理者と職員は、常に黒子として利用者を支える支援を行い、利用者も安定し認知症レベルや身体機能面での改善事例も多く見られる。四季の移ろいを感じられる外出や行事も多く計画され、ホームでの暮らしを楽しめるように様々な取り組みを行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 地域との付き合い・運営推進会議の2項目が改善課題であったが、運営推進会議の参加者が地域に積極的に声をかけ参加人数が毎回増えるなど、運営推進会議を通して地域に溶け込んだホームを目指し、「地域における福祉の発信地」としての取り組みを行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） ① 管理者は職員全員が自己評価に取り組む意義を理解しており、評価の実施にあたっては職員に自己評価票を配布をし、意見を求めた。その作業によって認識された新たな気づきや課題は、職員会議等でも共有している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議には多くの参加が得られ、参加者の努力にもより毎回その人数が増えている。幅広い立場の人達との積極的な意見交換や話し合いを重ねサービスの向上に繋げている。地域やホームでの行事計画に留まらず、地域で困ったことなども課題に挙げられ、地域のホームとして溶け込み、利用者も地域の一員として会議に出席し、議事録も詳細に取られている。
	③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族がホームに対する意見・希望を言いやすい雰囲気作りと、細やかな配慮をしている。苦情窓口は、広く苦情・意見を受け止める前向きな姿勢の現れなのか、事業所のみならず複数の公的機関も窓口として設定している。また、法人において、家族にアンケートを行い、法人やホームの運営に活かす取り組みを積極的に行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 地域の要望を取り入れ、この度、短期入所のサービスも引き受ける運びとなった。地域との連携は他に類を見ないほどの充実ぶりで、地域の夏祭りやイベントには利用者も参加し、職員もダンスやコーラスに参加し、地域とホームとの双方向の付き合いを目指し、日々努力を重ねている。

【情報提供票より】 (平成 20 年 7 月 25 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 16 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 4 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6.1 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

### (4) 利用者の概要 (平成 20 年 7 月 25 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	72 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人和光会山田メディカルクリニック
---------	---------------------

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民の要望で出来上がったこのホームの理念には、「住民との交流の下で地域と共に暮らす」という文言が含まれ、「地域との共生」「互助の精神」により、地域に根付いたグループホームとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は、理念に添ったケアの実践に向け、職員間で常に確認し合い、理念の「ゆたかにおおらかに地域で暮らすこと」を念頭に置き、日々の支援に取り組んでいる。また、職員の名札の裏に理念が記載され、常に理念を意識できるよう配慮をしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム内のふれあいセンターは、地域会合の開催や住民が気軽に足を運べるサロンともなっている。地域やホームの行事には利用者・住民が相互に参加している。外出の際に住民と会話したり花をもらうことも多く、自然に地域に溶け込んだホームとなっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の実施にあたって、管理者は自己評価を職員に配布して意見を求め、自己評価の作業を通して業務の振り返りやケアの見直しなどの認識にも繋がった。前回の要改善課題に対しても職員間で話し合いを重ね、前向きに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、幅広い分野からの参加があり、回を追う毎に人数が増え、今では20人を超える大所帯となった。会議ではビデオの活用や意見交換など、制度の説明や災害時の課題も含め、地域内の集まりともなり、幅広い内容で開催されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市へ出向くことが多く、相談等もその都度行っている。市から得られた情報は、職員とも共有している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には、利用者の担当職員が体調や日常の様子を細かく伝え、電話でも連絡し、内容も記載されている。家族には、プライバシーに配慮した上で写真も載せた便りも送られている。日常の写真は、退居時にブックにして家族にプレゼントしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、気軽に積極的に声をかけ、意見や希望の聴取に努めている。法人においても顧客満足度アンケートを行っており、結果を職員間で話し合い、常に謙虚に受け止め、日々の支援の改善や工夫に繋げ、家族の希望や要望に応えられるよう配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、利用者の希望も聞いて行われているが、利用者のダメージを招くことが理解されていることから、利用者や家族には新人の紹介を行って自然に馴染める体制をとっている。離職率も低く、職場を離れた元職員がホームに遊びに来て利用者との再会を懐かしむ場面も多くある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修は、年間計画に沿って、職員の勤務交代にも配慮した上で積極的に行われ、月に1度の職員会議や随時に行う申し送り時に報告会も行い、全職員に周知されている。研修参加が職員の質と学習意欲の向上に繋がるよう、様々な支援体制がとられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は岐阜県グループホーム協議会で知り合った同業者とネットワークを作り、情報交換を行って、そこで得た有意義な意見・情報をホームの運営に活かしている。	○	形式的な表面上の交流に留まらず、気心の合うホームと交流を持ち、グループホームのあり方や課題問題点を話し合い機会を持つことは、グループホーム全体の質の向上に繋がると思われる。「外を見る」経験を職員レベルで行えるよう考慮されたい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規の利用者が安心してホームでの生活が始められるポイントは「本人の納得」と「職員の受け入れ容認」であるとし、事前の聞き取りや家族からの情報を重点に置き、自宅訪問から始まり、ホーム見学や遊びに来てもらうなどの行き来を自然に行い、円滑なサービスの開始ができるよう支援をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者と職員は「利用者と共に生活する」関係作りに努めている。散歩では、利用者が仲間の車椅子を押したり、調理の配膳、お茶出し、テーブル拭き等を利用者に任せ、職員がさりげなく支援を行い、生活の主役は利用者であることを全職員が認識して日々のケアを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と職員で作った男性同士の会を「男会」、女性同士の会「なでしこ会」とそれぞれ名づけ、外出や外食など同性同士で気軽に話し合える関係作りを支援している。その経過の中で拾い上げた気づきは職員間で共有し、さらに日々の支援に活かしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ごとに担当者が決められ、介護計画作成者と担当者が中心となり、日常の経過記録も参考に他の職員の意見も取り入れた介護計画が作成されている。本人と家族の希望や要望も細かく聞き取っており、介護計画に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しに加え、急変時などは、随時柔軟に見直しを行っている。歩行困難時・また投薬などに変化があった場合など、利用者の病状や状態に変化が生じた際も家族・職員と話し合い、見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの希望により、通院などにも柔軟に対応し、早期退院の支援やこのホームでの生活を継続してもらえよう、できる限りの支援を行っている。地域の要望に答えた短期入所も設けたことにより、さらに多機能な支援へと繋がった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の協力病院から月に2回の往診があり、健康管理には配慮をしている。医療連携によって万全の体制に取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化と終末期に関してはケアの延長線であるという認識もあり、母体法人が病院であることから、時期が近づいたら法人内の施設へ移る方針であることを家族に説明をしている。管理者と職員は、出来る限り利用者にとってこのホームで過ごしてもらえよう、直前ギリギリまで個別のケアを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内に、個人情報とプライバシーに関する委員会が設置され、ホームで勉強会も開くなど、統一的な取り組みがされている。利用者への対応は、その人その人の状況に応じて、言葉遣いなどにも配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中でおおまかな流れはあるものの、天候や体調や希望によって決めることが多い。朝寝をしたい・一番に入浴したい・自室でお菓子を食いたいなど、一人ひとりの希望に沿い、自分に合った生活習慣で1日の時間をゆったりと過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は好みや力量に応じて、献立決め・下準備や盛り付けなどに参加している。利用者が職員に教えながら共に作った、しそジュースや梅干しが食卓を賑わすこともあり、食事時間は、職員が見守りながら同じものを食べ、和やかな雰囲気であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、限られた時間の中ではあるが、ほぼ毎日入浴できる体制がある。入浴中に利用者は草津温泉の民謡を歌ったりして日々の楽しみとなっている。夜間入浴の希望にも職員の勤務を考慮しながら柔軟に対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味を日常の生活で活かすための支援が行われ、地域に手芸品を展示したり、おやつ作りなど、利用者の習慣や楽しみに沿って支援をしている。調査当日も「もてなし役」の利用者が笑顔と共にお茶を出してくれた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出は、散歩を兼ねての買い物等、気候や天気を見て柔軟に行っている。暑い日などは帰宅する職員を見送りついでに外気に触れるなど、様々な形で外出に代わる支援も行っている。また、各種のイベントへの参加も多く、社会性を保つのに役立っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は施錠による弊害をよく理解しており、日中の施錠はされていない。利用者の言動を観察し、外出の気配がある時はさりげなく見守る支援を行っており、出て行きたい人の心を理解し把握することによって落ち着いた状態となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年に3回、利用者と職員が日中と夜間想定で行い、利用者も実際に消火器を扱う訓練などにも参加している。食料や日用品などを常に倉庫に備蓄しており、もしもの場合に備えている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	五色の食品が食卓に並ぶ「五色健康法」を献立に取り入れ、法人の管理栄養士がチェックしている。食事量や水分量も個別に記録され、日常の健康管理に役立てている。有機米を使用し、利用者の好みや希望によってお粥や柔らかめなどにも対応をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がどの場所でも自由に過ごせるよう、利用者の安全を考慮した動線が確保されている。玄関には手芸品や手作りの麦わら帽子が飾っており、四季の移り変わりを感じさせる工夫がある。おやつ後のカラオケは、リビングの隣にある広いふれあいサロンで行われ、利用者の楽しみとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンスは利用者の負担が重くならないようにと、居室に装備されている。居室の入り口には利用者の背の高さに合わせた名前が掲げられ、室内にはお気に入りのぬいぐるみやお手製の手芸品が飾られて、その人らしい個性ある居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。